

内面の資質を育てる 「道徳の時間」

広教ニュースレター

Vol.5



広教 2009.11

<http://www.hirokyo.co.jp>

道徳の時間でも情報モラルを指導するよう学習指導要領に明記されましたが、そもそも「道徳の時間」とはどうあるべきなのでしょう。
今回は、関西学院大学 教職教育センターの横山利弘教授に「道徳の時間」について寄稿していただきました。
横山先生は、名城大学教授、文部科学省初等中等教育局教科調査官、高知大学教授を歴任され、現在は日本道徳教育学会会長、日本道徳方法学会理事、日本生徒指導学会理事も務められています。



関西学院大学 教職教育センター
横山 利弘 教授

「よいことと悪いことを区別する力」

今の世の中において、こういうことを行うべきだというものが、客観的に誰もが認める形で存在しているのでしょうか。今までは、電車でお年寄りに席を譲るのをみんなが納得していた時代がありました。しかし、今では誰もが守るべきものではなくなくなってきています。かつて、みんながこうするのが当たり前だと思っていたようなものが、どんどん崩れて、普遍、妥当なものではなく疑わしくなっている時代なのです。大人の世界がそうであれば、それを見て子どもはどう思っているのでしょうか。

平成十七年文部科学省「義務教育に関する意識調査」によると、「学校での生活や勉強でどのような力を身につける必要があるか」に対して、「とても必要」という回答がもつとも多かったのは、小学生・中学生ともに「よいことと悪いことを区別する力」でした。（小学生が74・1％、中学生が64・7％）

今、子どもたちは大人の世界や友だちの行動を見ていると、何が基準で善悪を分けているのかわからなくなっているのです。

共通の規範を再構築

つまり、これが当然という共通の規範が崩壊してしまったのです。価値観の多様化は大事ですが、そのように言っているうちに価値観は個人のものとなり、「私」が善と思うものは善であり、「私」が悪と思うものは悪となったのです。

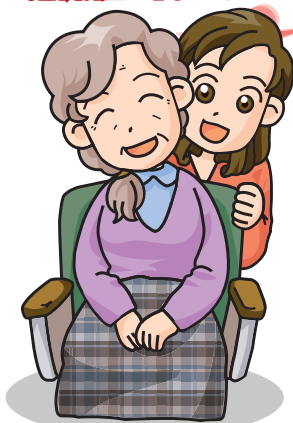
人間には、こういうときはこうするべきだという規範の幅が一人一人にあります。お年寄りに席を譲るのが当たり前前という規範意識のひと、そうでない人があるようにです。人間が他者のことをとやかく言うのは、自分の持っている幅と違うときです。そして、人間は他者からとやかく言われるのはいやな動物です。だからその動物が共存するために、互いにとやかく言わないのです。しかし、これでは人間関係は成り立ちません。人間関係を結ぶには、お互いに納得する「こういうときは、こうする」という共通の規範が再構築されない限り難しいのです。

今、求められている 「考える」道徳の授業

道徳教育はこれまでも、行動パターンを教え込むのではなく、「道徳性を育てる」という考え方でやってきました。人間なら誰でも持っている善悪に関する内面の資質を育てようとするのが道徳教育です。すべての人は、内面の資質としての道徳性を持っています。それを育てて行動できるようにしようというのが「道徳教育」の考え方で、既成の道徳を教え込むことではありません。

共通の規範が崩壊してしまっている以上、善悪に関して、子どもと一緒に「考える」授業をするしかありません。例えば、子どもたちに「友情」について考えさせるためには、一つは、ふさわしい教材が要ります。二つ目は、よい発問が必要です。どういう問いを出せば人間は考えるか、カントは「問いによって答えは限定される」と言っています。いい問いが作られれば、いい指導案が作られます。そうすれば子どもは生き生きと考えます。そうすれば行動も言葉づかいも変わるのでした。

子どもと一緒に「考える」授業で
道徳性を育てよう！



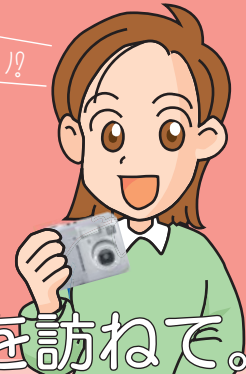
「Netモラル」の 道徳用読み物で授業

やしろ
倉吉市立杜小学校

<http://yashiro-ed.sakura.ne.jp/html/>

学 校

を訪ねて。



倉吉市立杜小学校は、鳥取県の中部、純農業地帯と工業団地、新興住宅地が入り交じった地域にあります。情報モラルの公開授業をされた田中靖浩先生のお話によると、この地域は、老人クラブ、地元の黨元、ゲストティーチャーなど、たくさんの人々が子どもたちの体験的な学習活動を支援して下さい、とても協力的とのこと。そんな心温まる地域で育った子どもたちの道徳の授業を取材してきました。

取材日：平成21年10月14日

授業の様子（小4）

ねらい：1-（4）誠実・明朗 著作権

実践：田中靖浩 教諭

導 入

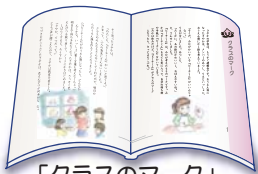
- ◆自分のマークを作成した時の気持ちを振り返る

1. マークについて考える。

マークにはどんな気持ちが込められているのでしょうか？

展 開

- ◆お話（読み物）を聞いて感想を発表する



「クラスのマーク」

- ◆さやか（読み物）の気持ちをワークシートに記入する



- ◆過去の経験を発表する



2. 道徳用読み物「クラスのマーク」の感想を発表する。

ストーリー

クラスのマークを考える宿題が出された。思いうかばないさやかは、人が考えたマークをつい「自分が描いたの。」と言ってしまった。悩んだ末、先生に本当のことを話す。

3. さやかの気持ちを考える。

「さやか」はどうして「きのう考えたの。」と言ってしまったのでしょうか？



- ・本当のことを言ったら他の人に何か言われそう。
- ・悪いとは思ったけど、みんなにほめられたから。

「さやか」は、どんな気持ちから「本当は、みかが考えたマークなんです。」と言ったのでしょうか？



- ・うそをつく、これからずっとうそをつかなければいけない。
- ・みかやクラスの人に悪いから、正直に言って怒られたほうがいい。
- ・本当のことを言わないと、まねされた相手がいやな気持ちになる。

ココがポイント↑

本当のことを言った「さやか」はどんな気持ちになったのでしょうか？



- ・本当のことを言えてよかった。
- ・すっとした。

4. 過去の経験を発表する。



- ・本を破ってしまい、10分くらい悩んだが正直に謝った。
- ・お母さんに怒られて、友だちのせいにしたけれど、本当のことを言った。今まで生きてきて一番いい気持ちだった。

終 末

- ◆著作権について考える



5. 著作権について考える。



- ・人のものを黙って使うのは、いけない。
- ・人に使われたくないときは、断ることができる。

道徳も情報モラルも基本の考えは同じ！「相手の気持ち」を考えることが大切なんですね♪



授業を終えて



倉吉市立杜小学校
田中 靖浩 先生

○情報モラルは、授業での指導の積み重ねが大切だと考えています。単なる禁止指導や知識の注入だけではなく、心を耕しながら情報モラルを身につけさせることが大切です。道徳のねらいを達成させつつ、情報モラルの指導を行うことをねらいとしました。

○こわくなって本当のことを先生に言おうと考えた主人公の思いに共感することを大切にしました。自分の経験と照らして考えることができ、相手や友だちの気持ちを考えるという意見がたくさん出されました。

○著作権については、終末段階で簡単に押さえたのですが、それまでに主人公の気持ちをじっくりと考えることができたので、著作権の大切さは自然に納得できたようです。

広教ニュースレターは、情報モラルや情報教育に関するニュースや授業実践、また最前線で活躍されている先生方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社

〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号

TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082

URL <http://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp

広教
HIROKYO 広島県教科用図書販売株式会社